マスコットキャラクター
「ちゅうおうちゃん」

札幌市立中央･もいわ幼稚園合同

研究だより No.3

マスコットキャラクター
「ぽっぽちゃん」

令和６年１０月２５日 発行

保育参加「遊ぼうデー」の実践

中央幼稚園、もいわ幼稚園では、保護者の方に幼稚園に来ていただき、普段の子どもたちの遊びの様子や友達との関わりの場面などを実際に見てもらい、一緒に体験していただく遊ぼうデーの日を設けています。子どもたちが遊びに向かっていく過程やその中でどのような力が育っているのかを保護者の方にも知っていただく目的として実施しています。

今回の研究だよりでは、１学期に行われた遊ぼうデーの保護者の皆さんの子どもたちへの素敵な関わりについて紹介したいと思います。

保護者も一緒に楽しむ姿

「みんなで協力して一つのことをしている時、親も楽しかった」「子どもたちのやりとりを聞いたり見たりしていると楽しかった」など子どもたちの遊びに入っている時に“楽しさ”を感じていたという感想が多かったです。そういった思いが子どもたちにも伝わり、自然と保護者の周りには子どもたちが集まり、“いつもの遊びを一緒にやってみたい”“これを見せたい”など子どもたちの主体性を引き出すきっかけに繋がったと思います。保護者の方の存在そのものが子どもたちにとっては魅力的な環境の一つだったのだと思います。

見守る援助

「あまり口出ししないように心掛けた」という感想がありました。もっとこうした方が…と思う場面もあったかと思いますが、“見守る”ことを選択した背景には、子どもが友達と一緒に何を楽しんでいて、そこにどんな学びがあるのかを感じたからこその関わりだったのではないかと思います。保護者の方が子どもたちの世界に入り込み、一緒に楽しもうとする姿が感じられる素敵な関わりだと思いました。

保護者が見付けた子どもの素敵な姿

「花の色水遊びで、色が変わる瞬間を見る目がキラキラしていた。粘り強く作り続ける姿にも成長を感じた。」「自分たちでどんどん遊びの準備をして、友達と協力している姿がよかった。」「みんなで話し合いをして意見を出し合い、みんなが納得できるルールを作っていることにすごい！と感じた。」など子どもたちと遊びの過程を共有することで子どもたちが何を楽しんでいるのか、友達とどのように関わっているのかを実感し、子どもの成長を感じた保護者が多かったです。親子で一緒に遊ぶことで気付く子どもの素敵なところを保護者の方と共有していくことが大切ですね。

実践を振り返って

・子どもたちの「やってみたい」「どうなるかな？」などの思いを丁寧に受け止めてくれる保護者の存在があったことで、子どもたちの意欲や動機に繋がっていた。
・実際に遊びの場面や子どもたちの姿を見てもらうことで、普段共有している一人一人の育ちや変化を保護者自身も感じ取ることができた。

保育参加について　研究アドバイザーからのアドバイス
北海道大学大学院　教育学研究院
准教授　川田　学氏

・保護者と教師の区別がつかないぐらい、保護者が子どもたちの近くに自然にいる様子が印象的でした。また、保護者が子どもの遊びを大切にしながら、我が子だけではなくいろいろな子どもと遊んでいて、親子で相互に遊びを楽しんでいる関わり方がとてもよかったです。

・幼稚園で子どもたちが主体的に遊びをつくって生活しているからこそ、親子で遊びをつくっていく保育参加（遊ぼうデー）が充実していました。そして、保護者が子どもの遊びへの思いを分かった上で遊びに入っていく姿もよかったです。子どもが自分の遊びに保護者を巻き込むことができるのは、子どもが主体的に遊んでいるからこそ成立します。遊びは学びです。その学びの土台になるのは、子どもたちが遊びや活動を自分自身で自分のものにしていくことです。保育参加で幼稚園教育の学びの土台を感じることができました。